

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年4月14日と17日に3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について、次のとおり概要をお知らせします。

Ⅰ 学力面について

平岡南中学校の平均正答率は、右表に示した全国・兵庫県に比べて国語・数学・理科ともにやや低い傾向を示していますが、大きな差はありませんでした。

国語においては、解く時間が足りなかった生徒が多く、全国・兵庫県でも同様の傾向が見られます。「話すこと・聞くこと」や「知識及び技能(漢字)」の一部で正答率がやや低い結果となっています。

数学においては、「図形」の知識問題で正答率が高い反面、証明の問題ではやや低い正答率になっています。また、思考力の必要な記述式の問題での無解答率が全国・兵庫県に比べて高くなっています。

理科においては、基礎学力が安定して身につけている一方で、複雑な思考を要する問題では、解答にたどり着くまでに時間がかかったり、途中で行き詰まったりする生徒が多い結果となっています。

令和7年度 平均正答率		
教科	兵庫県(公立)	全国(公立)
国語	54.0%	54.3%
数学	49.0%	48.3%
理科	505 ※IRTスコア	503 ※IRTスコア

※文部科学省・加古川市教育委員会の方針により各学校の正答率は公表しないこととします。

＜＜国語の成果と課題＞＞

- ・ 「話すこと・聞くこと」については、全国平均をやや下回っているものの、スピーチ中に相手の反応を踏まえて、意図的に発した言葉の理由を読み解く設問に関しては、全国・兵庫県の平均を上回っていました。スピーチは総合の時間などで実践する機会はあるものの、具体的な方法や表現の効果などについては、国語科の授業内で一緒に確認する必要があると考えられます。
- ・ 知識及び技能のうち、文脈に即して漢字を正しく使う力を問う「変換した漢字として適切なものを選択する問題(かいしん=会心)」が、全国・兵庫県の平均を下回っていました。同音異義語を中心に、文章に用いられる語句の漢字を意味とともに正しく捉えさせる機会を今後も増やしていきたいと考えています。
- ・ 「書くこと」「読むこと」については、ほとんどの設問で全国・兵庫県の平均とほぼ変わらない正答率を得ることができていました。上述した「話すこと・聞くこと」の力を問う設問でも、一部の問題から読解力の高さがうかがえました。毎週、学年で朝に実施している「読解(思考・判断・表現を鍛える)」の学習や『WAKARU教室』、協同的探究学習の成果があったのではないかと推察されます。
- ・ 無解答率に着目すると、無解答だった生徒は非常に少なく、全国・兵庫県では無解答率が上がっていた記述式の問題に関しても、ほぼすべての生徒が解答していたという結果が得られました。これも上記の取組の成果だと考えられます。ただし、それ以降の問題の無解答率が急激に上昇し、全国・兵庫県どちらと比べても平均を上回っていることから、解答する時間、十分に考える時間が足りなかった生徒が多くいたと予想されます。この傾向は全国・兵庫県どちらにも見受けられるものの、本校でも今後「問題文・選択肢の長文をスムーズに読み解く力」「難問に時間をかけすぎず、取捨選択する力」を鍛えていく必要があります。

《数学の成果と課題》

- ・ 「図形」分野の平均正答率は、全国・兵庫県を下回っていました。図形の知識問題の正答率は全国よりも高かったものの、証明の問題に関しては他と比べると非常に低くなっていました。証明に苦手意識をもっており、論理的に考える問題につまずきがあると考えられます。
- ・ 「データの活用」の分野の平均正答率は、全国・兵庫県を上回っていました。じゃんけんの問題に見られるように、日常生活に即した問題や、視覚的にイメージしやすい問題に興味をもって取り組んでいると考えられます。また、文章量が多い問題に対しても粘り強く考えているようです。
- ・ 無解答率が全体的に兵庫県や全国に比べて高くなっています。特に、思考力の必要な記述式の問題では無解答率がすべて兵庫県や全国よりも高くなっています。『WAKARU教室』などでこの点をさらに改善していくことが課題です。

《理科の成果と課題》

- ・ 平均正答率は、全国・兵庫県とほぼ同水準であり、基本的な知識や技能が多くの生徒に定着しています。また、学力の中央値を示す IRT バンド3に属する生徒の割合が全国・兵庫県を上回っており、学校全体として基礎学力が安定して身についているといえます。一方、高得点層である IRT バンド4と5の生徒の割合が全国・兵庫県に比べて低い傾向にあり、応用問題や思考力を要する問題に対応できる生徒が少ないことが課題となっています。
- ・ 電磁石の性質、光合成、植物のつくりとはたらき、気象といった分野で知識の定着に弱点が見られました。丁寧に復習を行うことが必要となっています。
- ・ 思考力や判断力を問う記述式問題の正答率が低い傾向にあることから、日頃から「なぜそうなるのか」を問う場面や思考プロセスを言語化する活動を増やすことが必要であると考えられます。
- ・ 調査の無解答率は全国・兵庫県と同水準であり、多くの生徒が最後まであきらめずに問題に取り組んだことを示しており、粘り強さや学習への真摯な姿勢が育まれていることがうかがえます。特に選択式や一問一答形式の基礎的な問題では、無解答がゼロという結果が出ています。しかし、詳細に見ると、基本的な知識を問う問題には確実に解答できる一方で、複雑な思考を要する問題では、解答にたどり着くまでに時間がかかったり、途中で行き詰まったりする可能性があることが示唆されています。これらのことは『WAKARU教室』や協同的探究学習、読解の取組の成果だと考えられる一方、グラフや図表を読み解いて情報を統合したり、複数の知識を組み合わせる論理的に答えを導き出したりする力が十分にはぐくまれていない可能性があり、『できる学力』の側面も重要視する必要があることが示唆されています。

2 生徒質問用紙から

良かったところ 《全国・県と比較して集計値が高かった項目》

- 自分には、よいところがあると思う
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- 人の役に立つ人間になりたいと思う
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
- PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する、情報を整理する、学校のプレゼンテーションを作成することができる、と思う
- 授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う

これからの課題 <<全国・県と比較して集計値が低かった項目>>

- ▲ 毎日、同じくらいの時刻に寝ている
- ▲ 毎日、同じくらいの時刻に起きている
- ▲ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
- ▲ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
- ▲ 新聞を読んでいる

3 今後の取組

本校の生徒は、自尊感情や自己肯定感が育まれ、優しく思いやりがあることが調査結果に表れています。自己有用感が順調に育っていることもうかがえます。また、授業においては、PC・タブレットなどのICT機器での活動に自信をもって取り組んでいることが顕著です。教職員とも良好な人間関係を築いており、教科学習の内容について質問をしたり、悩みごとを相談したりしている生徒の姿もよく見られます。今後もこれらの特徴的な傾向が継続するように教育活動を推進していきます。

一方で、睡眠時間の確保や規則正しい生活習慣の確立に課題があることも結果に表れています。この点は学校以外の勉強時間にも影響があると考えられます。基本的生活習慣の確立、特に「早寝・早起き・朝ごはん」の実践に向けて、今後もさらに啓発を行っていきます。

学習においては、漢字や計算、基礎的な知識や技能など、繰り返し学習しながら習得する『できる学力』の向上をめざすとともに、考えをまとめ、根拠や理由を説明する活動を積極的に取り入れ、知識を相互に関連付けてより深く理解できるように、『わかる学力』の育成に引き続き取り組んでいきます。

そして、本校教育目標である「こころ豊かに『在りたい未来』へ向かう 生徒の育成」の実現に向けて、今後も家庭と学校が連携を密にしながら、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を図った教育活動の推進に努めていきます。

今後とも、本校教育へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。